まじなひ秘傳

特257
949

368
374

始

特257
941

高島易断所本部編纂

まじなひ秘傳

神靈館發行

帝國圖書館藏

序

此禁厭の法は古來よりの神秘術にして決して輕々に貶す事の出來ない大切の方術である、然れども術者誠を以て行はざれば靈驗が著はれないのである。

此の禁厭の法は化學的の學理を以て論ずべきものにあらず、實に世に謂ふ不思議なるもので所謂神秘的なものである、此不思議は往昔よりあり傳へたもので、玆には古來よりの靈妙不思議の秘傳として傳へ來りしものを蒐輯せしものなれば化學の進歩せし今日一笑の價なきものゝ樣なれど、實際に臨んで靈驗著しきは豈不思議の不思議と謂はざるべけんや。

著　者　識

禁厭術秘傳書目次

1 九字の傳授……（一）
2 神傳十字の秘法……（五）
3 砲彈除の守……（八）
4 無盡の必勝法……（八）
5 雷除の咒……（九）
6 火災除けの咒……（九）
7 走人足留の法……（一一）
8 走人の歸る咒……（一二）
9 思ひ事の叶ふ法……（一三）
10 六三除の咒……（一三）
11 齒痛を止むる咒……（一四）
12 子供の虫封じの咒……（一四）
13 脚氣に罹らぬ咒……（一五）
14 寢小便の咒……（一五）
15 小兒の夜啼を止むる咒……（一六）
16 流行病の傳染を防ぐ咒……（一六）
17 凍傷をせざる咒……（一七）
18 諸病除の咒……（一七）
19 諸病釘責の法……（一八）
20 方災除靈符……（二〇）

21 失物を現はす呪……（二一）
22 犬に噛まれぬ呪……（二二）
23 一切の病を除く秘法……（二三）
24 井戸の水を清くする呪……（二三）
25 惡疫虛を除く呪……（二四）
26 疣を取る呪……（二四）
27 芋のゑぐからぬ呪……（二五）
28 虫歯の痛みを治す呪……（二五）
29 蠅を除く呪……（二六）
30 蜂に刺れたる時の呪……（二六）
31 鼻血を止める呪……（二七）
32 歯切りを治する呪……（二七）
33 腹の痛みを治する法……（二七）
34 走人を呼戻す呪……（二八）
35 天然痘を避くる呪……（二八）
36 シヤクリを止める呪……（二九）
37 暑氣にあたらぬ呪……（三〇）
38 小便を堪ゆる呪……（三〇）
39 遠き路を歩いて足痛まぬ呪……（三一）
40 無難に川を渡る呪……（三一）
41 小兒の夜鳴きを止むる呪……（三一）
42 目の覺る呪……（三二）
43 夜怪しき時目覺る呪……（三二）
44 火災を避くる呪……（三二）

45 蠟燭の流れざる呪……（三二）
46 虫の耳に入たる時の呪……（三三）
47 馬の腹の病の呪……（三三）
48 土龍の出ない呪……（三四）
49 目いぼを治す呪……（三四）
50 物忘れせぬ呪……（三五）
51 小兒の陰部腫れたる時の呪……（三五）
52 魚の鉄網に喰付ぬ呪……（三五）
53 長座の人を速に歸す呪……（三六）
54 苦情爭論を避くる呪……（三六）
55 釜鳴りを止むる呪……（三七）
56 瘤を治す呪……（三七）
57 瘧を落す呪……（三七）
58 迷子を尋ぬる呪……（三八）
59 樹木の枯れぬ呪……（三八）
60 疣を取り去る呪……（三八）
61 家内の失物の發見する呪……（三九）
62 針釘の身体に折込だを抜出す呪（三九）
63 毒虫に喰ひ付れたる時の呪……（四〇）
64 中氣の起らぬ呪……（四〇）
65 嫉妬の止まる呪……（四〇）
66 盗賊の入らぬ呪……（四〇）
67 女の二心あるを現はす呪……（四一）
68 旅行災難除の秘呪……（四一）

69 放蕩息子を矯正する呪……(四二)
70 難産の呪……(四二)
71 鍋釜の鉄氣を止むる呪……(四二)
72 口中の臭きを治す呪……(四二)
73 月經を延ばす呪……(四三)
74 人を呼寄せる呪……(四三)
75 船や汽車に醉はぬ呪……(四四)
76 百日咳の呪……(四四)
77 癲癇を治す呪……(四五)
78 蟻の出ざる呪……(四五)
79 諸の災害を封ずる呪……(四五)
80 脈にて吉凶を知る秘法……(四六)
81 手を清める呪……(四六)
82 惡氣を拂ふ呪……(四八)
83 痔疾の呪……(四八)
84 思う人に思はれる呪……(四八)
85 金持となる呪……(四八)
86 轉居先の邪氣を除く呪……(四九)
87 飲物の中に毒あるか否を知る法……(四九)
88 子の出來る秘法……(四九)
89 病の長引かぬ呪……(五一)
90 輕卒の癖を直す呪……(五二)
91 痣ぬきの妙法……(五二)
92 酒に醉はぬ呪……(五三)

93 小兒の耳垂れを治す呪……(五三)
94 足の痿痺を治す呪……(五三)
95 田虫を治す呪……(五四)
96 汗を去る法……(五四)
97 ソラ手を治す呪……(五四)
98 惡しき夢を打消す呪……(五五)
99 凶事や怒る事を止める呪……(五六)
100 家運繁昌の秘法……(五六)
101 目に物の入りたる時の呪……(五七)
102 火傷を即座に治す法……(五七)
103 煙草の酔を治す法……(五七)
104 疊に染みたる油を拔く法……(五八)
105 醬油の黴を豫防する法……(五八)
106 酒に醉たるを醒す法……(五八)
107 麥藁帽子洗濯する法……(五九)
108 鉛筆の字を脱さぬ法……(五九)
109 病人の死生を知る法……(五九)
110 災難を前知する法……(六〇)
111 餅に黴の生へぬ法……(六〇)
112 腋臭を治す法……(六一)
113 漆器の臭氣を取る法……(六一)
114 蚤を除ぐ方……(六一)
115 頭のフケを除る法……(六一)
116 書籍の汚点を去る法……(六二)

117 飯櫃の臭みを除る法……(六二)
118 陰虱を治す法……(六二)
119 割れたる石をつぐ法……(六三)
120 鳥眼を治す法……(六三)
121 とげを拔く法……(六三)
122 器物に光澤を出す法……(六四)
123 火の刎ねるを止むる法……(六四)
124 色を白くする法……(六四)
125 朝顏の花を大きくする法……(六四)
126 寒さを防ぐ法……(六五)
127 煙草の脂を去る法……(六五)
128 濁水を澄す法……(六五)
129 卵の牝牡を區別する法……(六六)
130 酒醤油の汚点を去る法……(六六)
131 青菜を軟くする法……(六六)
132 貝類を軟く煮る法……(六六)
133 板の裂れを防ぐ法……(六七)
134 硝子器の破れぬ法……(六七)
135 牛乳の腐敗せぬ法……(六七)
136 天麩羅を暖かにする法……(六八)
137 鰹節の保存法……(六八)
138 酢の黴ぬ法……(六八)
139 蛸を柔かに煮る法……(六八)
140 印判を洗ふ法……(六九)

141 赤毛を黒くする法……(六九)
◎吉凶の前兆……(七〇)
◎烏啼きの吉凶を知る法……(七四)
◎釜の鳴る時の吉凶……(七六)
◎耳の鳴る時の吉凶……(七六)
◎犬の遠吼で吉凶を知る法……(七六)
◎一年間の行事……(七六)
◎盜賊の男女幷方位を知る法……(八三)
◎盜まれた物の現はるゝ日……(八六)
◎盜難に遇ひ必ず顯はす法……(八七)
◎盜人の足留の法……(八八)

目次（終）

禁厭術秘傳書

(1) ●九字の傳授

抑九字は護身術の秘法にして決して輕忽に看過すべからず、先づ其法を行のふには毎朝手洗ひ口漱ぎ東方に向つて口を開き息を内に吸ひ込むこと三度、次に齒を叩くこと三十六度、心を安靜にして是を修すべし、然る時は諸々の怨敵惡魔狐狸の類に到るまで障碍を爲すこと能はず、神妙不思議の大秘法なれば、疑の心を生せず、誠を以て行ふべし、斯く尊き法なれば其人平常仁慈忠孝の志なく、非法濫行の人にては更に効驗なく却つて冥罰を蒙るべし、又心正直にして天道を

恐れ人の道に背かざる人は必ず其利益著るしく艱難水火の難一切の悪事災難を免がれ安全に身を守るべし。

大摩利支尊天の秘術九字の法は、運力を増し悪魔怨敵を滅し一切の厄難を除き諸々の願望成就なさしむるの神秘術なり、恐らくは至誠を以つて本法を修得する人は靈驗實に著しきものなり。

今切紙九字の法と云ふは、

臨兵闘者皆陣裂在前

獨古印

左右の手を内へ組んで頭指を立て合す

大金剛輪印

二手内に組み頭指を立付け中指にてからむ

外獅子印

左右互ひに中指にて頭指をからみ大指無名指小指を立て合す

内獅子印

左右互ひに中指にて無名指をからみ大指頭指小指を立て合す

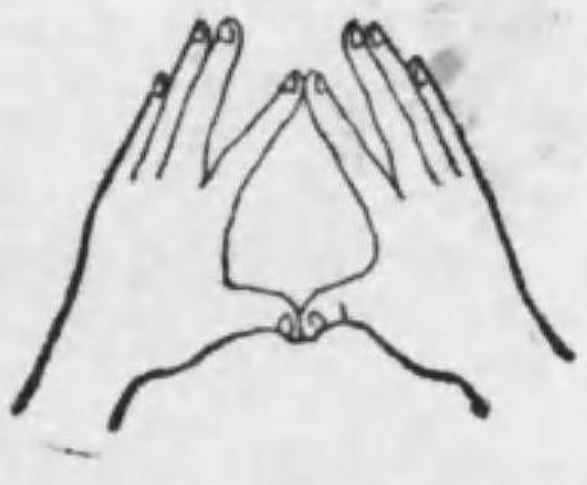
外縛印

二手各々外へ組合すなり

內縛印

智拳印

日輪印



十の指互に內へ組み入るゝなり

左四指を握りて頭指を立て右にて圖の如く左の頭指をとる

左右の大指頭指端をつけ余の四指を開き散ず

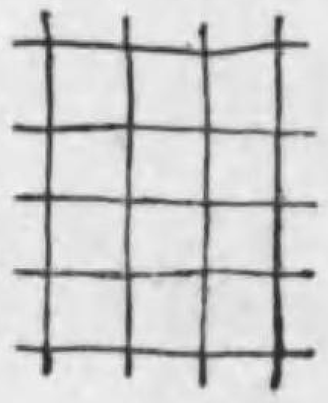
隱形印

臨兵鬪者皆陣裂在前

左の手をうつろに握り右手の上に置く口傳

(2)

●神傳十字の秘法



天

高貴大官の人の前に出る時又は航海や渡船の時此字を書き心の中に日月の二字を信念すれば過ちなし。

王

惡人に對する時、事變に應ずる時、又裁判等の時、左の手の中に書き心の中に日月を念ずる時は其難を免がる。

命

怪しき飲食等を馳走せらるゝ時や敵に向ふ時之を書き、心に日月を信ずれば其難を免がるべし。

勝

戰鬪幷に勝負事の時や賣買の時に之の文字を書し、心に日月の二字を念ずれば勝利を得べし。

龍

海川や又は船に乘る時或は風雨に向ひて出づる時、此字を書き心に日月を信念すれば水難等に罹る事なし。

虎

深山へ登山する人幷に狩獵に行く時之を左の手に書し、心の中に日月を信ずれば猛獸毒蛇に襲はるゝ事なし。

⿰口⿱罒疋

傳染病や流行病患者のある家に行く時又惡人共の居る所に行かんとする時此字を書いて心に日月を信ずれば無事なるべし。

水

酒席に出る時又は水のかわり目等に此字を書いて心に日月を信念すれば其障りなし。

大

怪しき場所や淋しき所などに行く時、又疫病の人を見舞ふ時此字を書き心に日月を念ずれば無難なるべし。

曰

凡て祝言慶事の時に之を書し心の中に日月を信ぜば安泰なるべし。

以上を十字の法と云ふ。

之を行ふには男は左の手、女は右の手にて刀印にて空書すべし、又其刀印を硯に宛て、白紙に書して懷中するもよし。

刀印とは左の形を云ふ。

（3）

●砲彈除の守

此の符は戦場のみならず各人携帯すれば不慮の災難を免がる不思議の霊符なり

（4）

●無盡の必勝法

表

裏

此の符は二枚認め二タ組にして一ツは神棚に祭り一ツは懐中にすべし、表裏の書き方は左の如くにして人に知られない様に秘して持つべし。

(5) ●雷除の咒

東方に　阿伽多　南方に　殺帝魯

西方に　須多光　北方に　蘇陀摩尼

右の文字を紙に書き家の四方の柱に貼るべし。

又左の呪文を唱ふれば落雷する虞なし。

雲雷鼓掣電、降雹樹大雨、念彼觀音力、

應時得消散、

之れを三唱すべし。

(6) ●火災除けの咒

往宋名无忌知君是

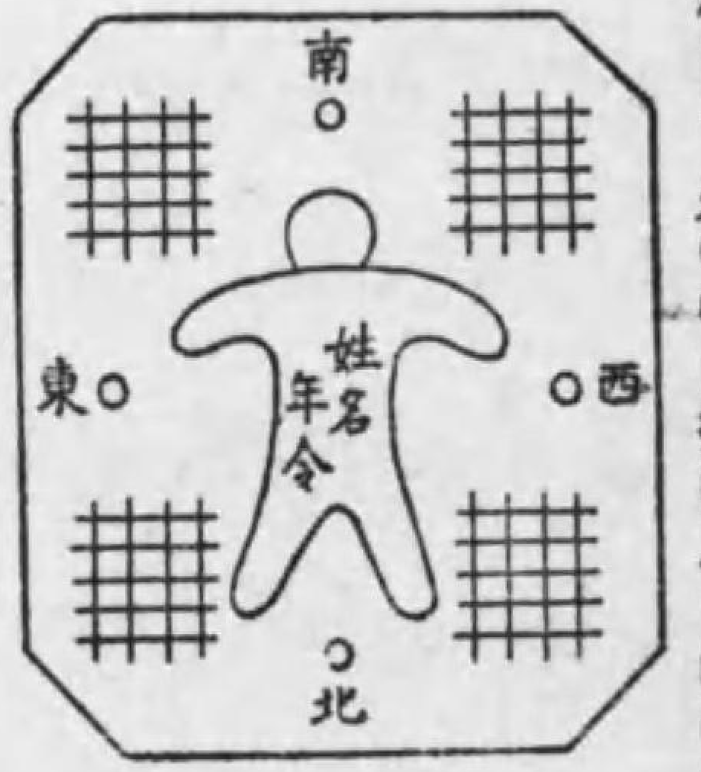
火精大全輪王勅

此の符を書いて門口に貼れば火災に逢ふことなし。

又紅絹か女の赤い腰巻を旗の形となし長き竿に付けて火の中に投げ入るれば火は消ゆ。

(7) ●走人足留の法

此の如く書いて〇印の所へ釘を打てば遠方に行く事なし。



立別れ稲葉の山の峯におふる
まつとしきかは今歸りこん

此歌を二ッ書き神棚に逆さに貼り一枚は其人の茶碗に入れ伏せて物さしを載せるべし。

(8) ●走人の復る咒

此符を走りたる人の寢床の疊の下に入れ賦の字の所へ釘を打ツべし。

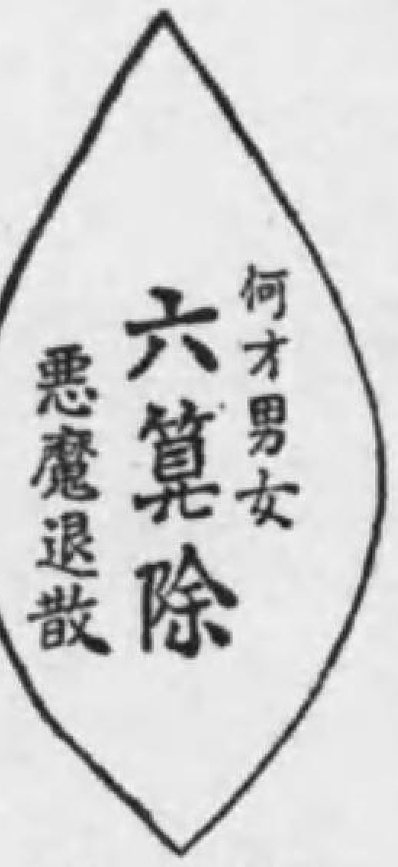
(9) ●思ひ事の叶ふ法

戸田鬼
日日日
喼急如律令

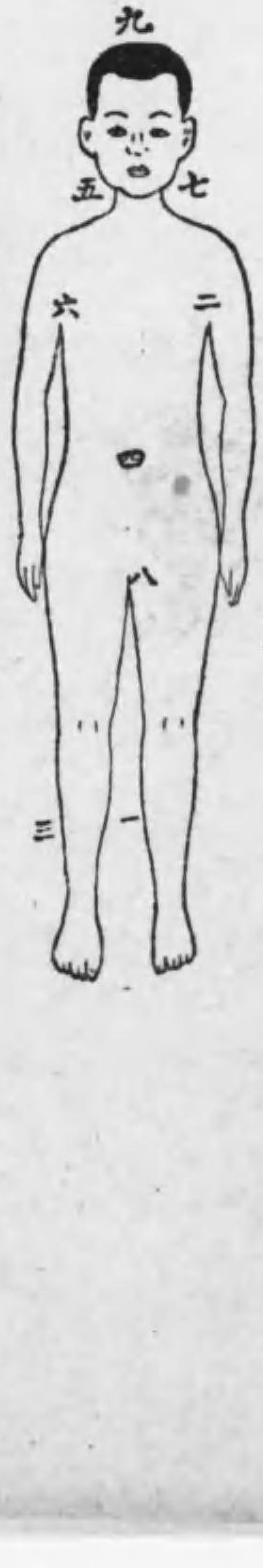
之れを書いて枕の下に置きて寢る時は思ひ事叶ふべし。

(10) ●六算除の咒

六算の障りを知るには、九は頭五七の肩に、六二脇、四腹八ツ股一三の足(女は右男は左)

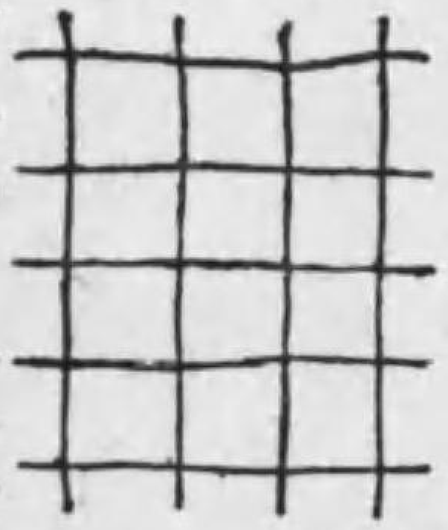


榊の葉に此の字を書き高天原の祝詞を唱へ悪い所を摩り河又は海に流し後を見ずして歸



るべし。

(11) ● 歯痛を止むる呪



歯の痛む人の足形を取り其紙を三ッに折りて表に圖の如く書し釘にて柱に打付くべし。

(12) ● 子供の虫封じの呪

之れを五ッに折り虫の字を出して虫の頭に當る所を釘にて柱に打付くべし。

(13) ● 脚氣にかゝらぬ呪

舊暦四月八日に新らしき草履を一足紙に包み何才の男(女)と記し脚氣を病まぬよう祈念し八日を過ぎて海又は川に流すべし。

又寒鳩を一羽他人に食さず自分一人で食すれば脚氣を患ふことなし。

(寒鳩とは小寒より大寒までの季節の鳩を云ふ)

(14) ● 寝小便の呪

半紙三枚を寢床の下に敷かせて小便にて汚れたる紙を黒燒にして其人の臍に貼るべし。

又雞の膓を燒黒にして白湯にて呑むも妙なり。

(15)

●小兒の夜啼を止むる咒

啼く兒の臍の下へ田の字を書けば止むと云ふ。又、

鬼		鬼
	鬼	
鬼		鬼

此れを白紙に書いて柱に貼り付けば夜啼きをせす。

(16)

●流行病の傳染を防ぐ咒

舊五月五日蛇苺を取りて水にて呑むべし、其年は如何に流行病あるも傳染することなし。

又、

嚏の字を書き其上に刀と云ふ字を書く眞似をすれば傳染せざるなり。

(17)

●凍傷をせざる咒

柿の澁を塗り付ければ霜燒に罹る事なし。

又六月の土用に日光に輝りて熱くなりたる瓦を取り置きて傷む所へ押當れば霜燒の患なし。

(18)

●諸病除の咒

此法は何病に限らず行ふべし、必ず平癒する事妙なり。
男は左の足、女は右の足、白紙に足の形を取り圖に書し針を指すべし。

足形の白き所に指すべし、禁穴とて指すべからざる所を示したれば注意して行なはるべし。

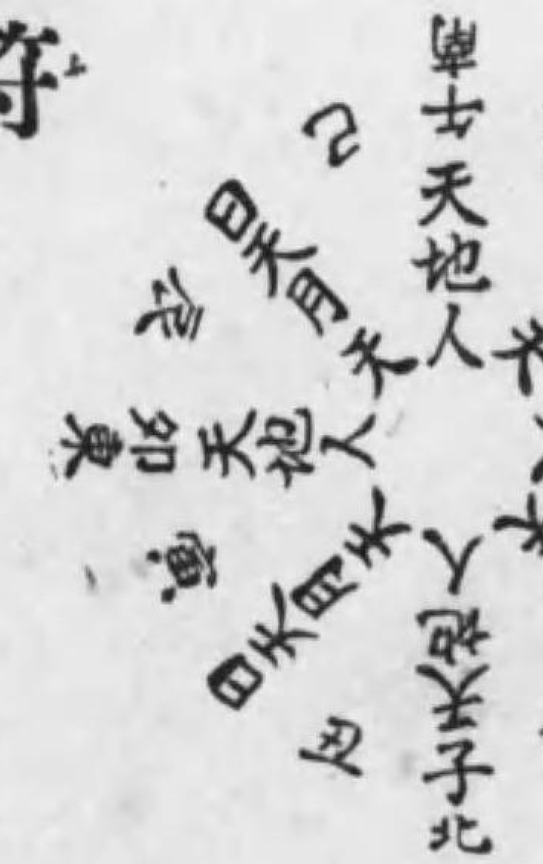
(19) ●諸病釘責の法

先ヅ責板を供へ之れに圖の如き文字を書し釘を持ッて打ッ、但し釘十二本長さ

五寸とす。
始め十二支を釘にて打ち亥に至りて釘盡きたる時子に打ちたる釘を拔き天地人及び日月と順に釘を打ち責め込むべし。
呪文曰く

『ヲンバダロシヤ、キバの吹く息、突く息地吹く風、天吹く風に、千里はへたるつたが一本生きて、根を斷ち葉を枯す、下には、不動の火災あり、上には五色の雲ありて早吹込んだぞ伊勢の神風』

右の呪文を一心に唱へ責め込んで之を川に流すべし。板は桑の木にて厚さ三寸五分に作るべし。

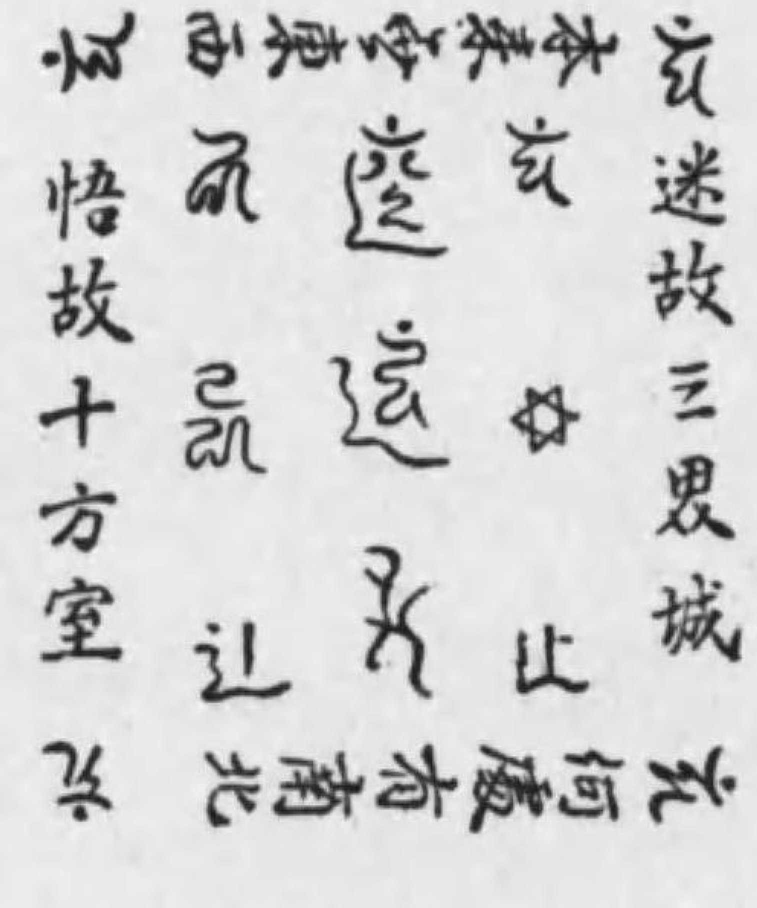


(20)

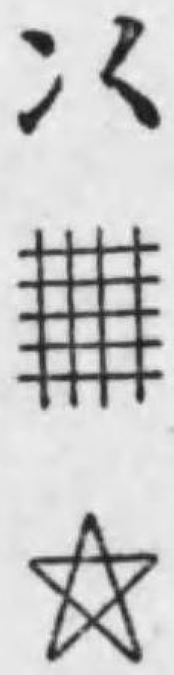
●方災除靈符

方位を犯した時に之れを白紙に書し表に

南無三寶荒神守護と記して犯した方位の柱の下に埋むれば方災を免がるべし。



裏には



と記すべし。

(21)

●失物を現はす咒

右の御符を書き釜の奥に立てゝ光明眞言を七返唱へ祈念すれば失物出づる事妙なり。

光明眞言に曰く、

ヲンアボキヤ、ベイロシヤナフ、マカボダラマニ、ハンドマ、ジンバラ、ハラハリタヤ、ウン

(22)

●犬に嚙まれぬ咒

犬の吠ゆる時左の咒文を唱ふれば忽ち止む。

戌亥子丑寅と指を折りて寅で停むる事三回唱ゆれば忽ち止む。

又嚙まれた時は、

嚙みたる犬の毛を三筋取りて瘢口に付くべし、又黒砂糖を付くるもよし、併し小豆を食せば惱む事あり。

(23)

●一切の病を除く秘法

舊正月元日、二月は二日、三月三日、四月四日と毎月月日の重なる日に批把の葉を煎じ沐浴すれば諸病發る事なし。

(24)

●井戸の水を淸くする咒

山山冬皿

山山冬口鬼喼如律令

山山冬冬

井戸替をした後此御符を石にくゝり井戸の中へ入るべし、忽ち水清くなる。

(25)

●悪疫瘧を除く咒

鬼蟹の甲を入口に掛けて置くべし、諸々の悪疫瘧等一切の怪しき病に罹る事なし。

(26)

●疣を取る咒

筆の軸に紙を巻き長さ一寸にして其紙に火を付け**アビラウンケンソワカ**と唱ふれば落る事妙なり、又二つも出づる時は芋の蔓を引き切りて白き汁の出るを度々付くべし、又身体中に出る時は手の上の指の股に日々一ッ宛七日間灸をすゆるべし。

但うんこう日を見て灸をすゆべし。

(27)

●芋のゑぐからぬ咒

右の手に芋を持ち左の手に庖刀を持ちて皮をむき左の手にて切るべし、生芋に食ふもゑぐからず。

(28)

●虫歯の痛みを治す咒

この符を小さく紙に書き七ッ折に畳んで虫と云ふ字の頭を柱の高き所に打付けおくべし。

天[罒+鬼]喼如律令

痛み止まる事妙なり。

(29)

● 蠅を除く咒

舊五月五日十二時の剋限に、

儀方

の二字を書いて門戸に逆さまに張るべし、蠅來らず、又島の字を同日同時刻に書いて逆さまに貼るもよし。

(30)

● 蜂に刺れたる時の咒

蜂に刺れたる場所の竹にても又木にてもよい、地上に丙丁火と書いて口の中にて念じ七度書いて其土を刺れたる處へぬるべし、即座に痛み治るべし。

禁呪術秘傳

(31)

● 鼻血を止める咒

額に 此字を書き上の点を指にて押して、

アビラウンケンソワカ

と三べん唱うれば止まる事奇妙なり。

(32)

● 齒切りを治する咒

其人の寢る處の下の土を取りて其人の寢入りたる時密かに其土を口中に入るべし、又米一つかみ左の手に入れて食ふべし、是又妙なり。

(33)

● 腹の痛みを治する法

竹の皮を黒焼にしてさゆにて用ゆれば忽ち治る事不思議なり。

(34) ◉走人を呼戻す咒

三太郎コイヨ
三太郎コイヨ
三太郎コイヨ

巾二寸五分の紙に斯く認め三ツに折りて中を結ぶ

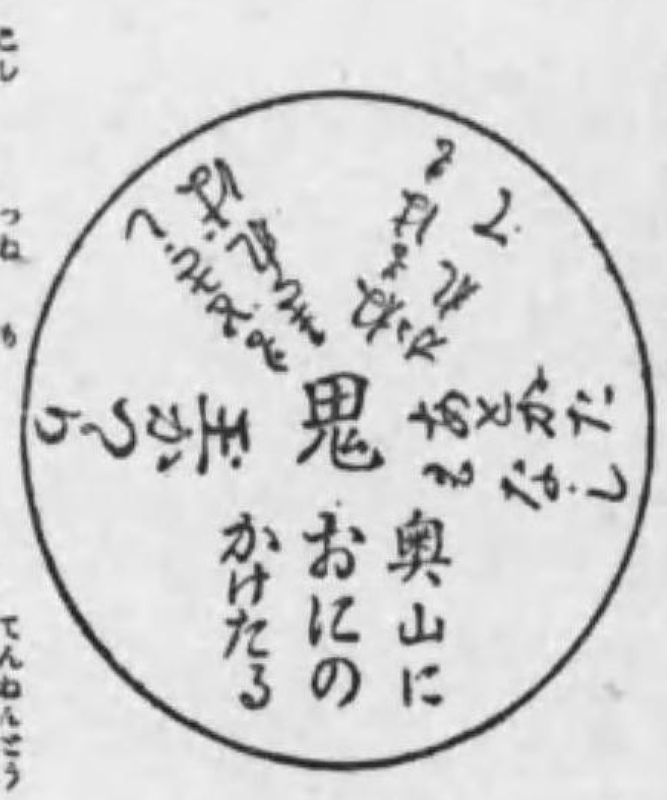
(35) ◉天然痘を避くる咒

其人の普通行きたる雪隠の丑寅の屋根の角に狭み置き又磁石を紙に包み其人の衣服又は帯に入れ台所に釣り置くべし、奇妙なり。

男は墨、女は紅にて小兒の掌に左の如く書いて口の中にて、

アビラウンケンソワカと三度唱ふべし。

既に天然痘に罹りたる時には、



斯の如く書いて病人の頭の上に貼り置くべし軽くなるなり

又小兒には白南天の小さな瓢箪を拵らへ常に持たすれば天然痘に罹る憂ひなし。

(36) ◉シャクリを止る咒

男は左、女は右の手の中に、

犬 と云ふ字を三返書くべし、忽ち止る事不思議なり、又茶碗に水を入れ箸を十文字にして四隅より呑むべし。

(37) ● 暑氣にあたらぬ咒

夏の炎天に道を歩行む時艾の葉を臍の中へ入れ帶にて〆て歩行めば霍亂等の憂ひなく暑氣に當らぬ事妙なり。

(38) ● 小便を堪ゆる咒

見物や又は貴人の前に出で或は勤め事にて小便を遠慮せんと思ふ時は青松葉をよく揉みて臍の中に入れ置かば長時間辛抱せらるべし。

(39) ● 遠き路を歩いて足痛まぬ咒

足の裏表に胡摩の油を塗れば足の痛む事なし、又洗足して後鹽を唾にてねり足の裏へぬる時は足痛む事なし。

(40) ● 無難に川を渡る咒

筆なり指にても土の字を書くべし、朱にて書たるを持つ時は一層難なし。

(41) ● 小兒の夜鳴を止むる咒

あしはらやちからのさとのひがきかね、ひるはなきとも夜はなゝきぞ。
この歌をよみ〳〵男子は左、女子は右の耳より吹き入れてよし。

(42) ●目の覺る咒

人まるやまことゝ明石の浦ならばわれにも見せて人まるのつか。
三返よんで寝るべし、何時でも起んと思うとき目覺るなり。

(43) ●夜怪しき時目覺る咒

うちとけてもしもまどろむことあらばひきおどろかせわがまくら神。
此歌を三遍唱へて寝るべし、何事にも怪しみあれば目さむるなり。

(44) ●火災を避くる咒

大晦日の朝五時から七時迄に水を汲み人の知らざるやうに厠の後へ廻り水を二

度まくべし、其年火事に逢はざるなり。

(45) ●蠟燭の流れざる咒

小刀又は指の先にて水と云ふ字を三ツ蠟燭に書くべし、少しも流れざるものなり。

(46) ●虫の耳に入たる時の咒

韮の汁と酢とを合せて耳へ一滴つぎ入るべし、虫飛び出る事妙なり。

(47) ●馬の腹の病の咒

馬馬
馬馬
馬馬　嗡急如律令

此符を抹艸に添へて飲ますべし、忽ち治る事妙なり。

(48) ● 土龍の出ない咒

吠天力

日日
日日
日日　嗡急如律令

此符を土龍の出たる所に立つべし、再び出づる事なし。

(49) ● 目いぼを治する咒

目いぼの先へ柄杓の柄の先を當て『目なをれ犬のくそ〳〵』

と三返唱へ其一返〳〵杓の柄先をめいぼへあてるべし、二三日に治す。
又、井戸の上にて小豆を目にはさみて落すべし。

(50) ● 物忘れせぬ咒

舊五月五日夜あけ方に東に向ひたる桃の枝をとり三寸に切り衣服の襟に縫ひ込んで置くべし、物忘れせぬ事妙なり。

(51) ● 小兒の陰部腫れたる時の咒

蚯蚓に水をかけて洗つて逃がしてやるべし、治る事妙なり。」

(52) ● 魚の鉄綱に喰付ぬ咒

魚を燒く時火箸で三度引く眞似をすれば鐵網に燒け付くこともなし。

(53) ●長座の人を速に歸す咒

箒に頬冠をさして其人の知らぬやうに逆さに立つべし。

又其人の履物の裏に『三日月』の字を指の先きにて書く眞似を三度すべし直に歸る事妙なり。

(54) ●苦情爭論を避くる咒

尸日鬼尸尸鬼喼急如律令

右符を白紙に書して懷中すれば人より難題を云はれず。

禁呪術秘傳

(55) ●釜鳴りを止むる咒

破口且口王 月月月 喼急如律令

之れを白紙に書き釜の周圍に貼るべし。

(56) ●瘤を治す咒

ぼけ〳〵と三返唱へて瘤の上を摩擦る事毎朝三日行ふべし。

(57) ●瘧を落す咒

新らしき草履をはき朝早く出かけて四ッ辻の所にぬぎ捨て後を見ずして歸るべ

し、落つる事不思議なり。

(58) ● 迷子を尋ぬる呪

男の子ならば左、女の子なら右に尺を帯にさして探す時は忽ち尋ね當るなり

(59) ● 樹木の枯れぬ呪

短冊に『卯月八日』と記し其木にかくべし、枯れぬ事不思議なり。

(60) ● 疣を取り去る呪

舊七月七日大豆にて疣を三度拭ひたる後東の方の人の通行せぬ場所に置き其豆

が葉の生じたる時熱湯を注げば忽ち抜ける事妙なり。

(61) ● 家内の失物の發見する呪

符	符	符
符	符	符
符	符	符
符		符

斯の如く書いて釜の下におけば家内の失物ならば必ず出づるなり

(62) ● 針釘の身体に折込だるを抜出す呪

針釘の折れ込みたる時ハ蚯蚓をとり土を去り其所へ塗り付ければ自然にぬけ出る者なり。

(63) ●毒虫に喰ひ付かれたる時の咒

毒虫に刺れたる時はやの字を其上に書くべし、忽ち治る事妙なり。

(64) ●中氣の起らぬ咒

舊五月五日の早朝に榎の實を取り東の井戸の水にて飲めば一代中氣は起らず。

(65) ●嫉妬の止まる咒

鶯を食せしむれば嫉妬は自然とやみ温和の性質となるものなり。

(66) ●盗賊の入らぬ咒

家の表と裏の方へ向ひ書く真似をして三返唱ふれば盗人家の内に入りても物を取らず

そわか とつ犬しみん 中たつ

(67) ●女の二心あるを現はす咒

東に向ッて行く牛馬の足跡の土を取ッて其の女の肌衣の襟に知れぬやうに縫ひ込みおけば自然と言葉に出すものなり。

(68) ●旅行災難除の秘咒

不安心と思う所へ行かんとする時又は夜間歩行する時は先ヅ眼を塞ぎ眦を指にて押して見るべし、眼中に金輪が見へざる時は不意の難に逢ふべし、又金輪の見ゆる時は災厄なし、故に金輪の見へぬ時は決して外出すべからず。

(69)

●放蕩息子を矯正する咒

道樂息子を矯すには團子九ッを便所に供へ、ヲンクロダノウンジヤクソワカと唱へ其團子を喰べさすと道樂は止むと云ふ。

(70)

●難産の咒

蓮の葉に人と云ふ字を書いて其露を呑すれば安産する事妙なり。

(71)

●鍋釜の鉄氣を止むる咒

其家の宗旨に依りて南無阿彌陀佛或は南無妙法蓮華

經と云ふ字を釜の底に書いて煑れば金氣の出づる事なし。

(72)

●口中の臭きを治す咒

毎月一日の日の出る頃水を口に含み東の方へ七足歩きて止り、後向いて口の水を七度に吐くなり、斯くする事三ケ月に及べば治する事妙なり。

(73)

●月經を延ばす咒

葱の植へたる畑にゆき葱を股いで局部に火と云ふ字を九ッ書くべし、但し他人に見らるゝ時は功驗なければ夜陰に爲すべし。

(74)

●人を呼寄せる咒

蛙の繪を書いて其の脊中へ其人の名を書付てそれに針をさして人目に掛らぬ所におくべし、尤も其人來りたる時は針をぬき取り蛙は川へ捨つべし。

(75) ●船や汽車に醉はぬ咒

船や電車や汽車に醉ふ人は食鹽を紙に包み臍に宛てるべし。
又乘る時コヨリを鼻の穴へ入れ嚔を三ツして乘るべし、決して醉はぬものなり
又酢を一口飲みてもよし、又梅干を含むもよし。

(76) ●百日咳の咒

百日咳には雀の足を黒燒として呑ますれば必ず治するなり。

(77) ●癲癇を治す咒

癲癇にて打倒れたる時は其人の履物の裏にて頭をなでれば忽ち治する事妙なり

(78) ●蟻の出でざる咒

『虫へんに義理の義の字は蟻ながら人の座敷へ案内もなしとは』
この歌を書いて蟻の出る所に貼りおくべし、逃げ去る事妙なり。

(79) ●諸の災害を封ずる咒

庚申の日に桃の木の枝に左の符を朱にて書き門の入口に埋むる時は年中諸の災難に罹る事なしと云ふ。

(80) ● 脈にて吉凶を知る秘法

先ヅ左りの拇指と中指にて腮の奥齒の下を押へて脈度を量り其の押へた手の脈度を右の手で押へて同じければ無事であるも、若し脈の打方に遲速があれば災厄來るなり、故に常に試みて旅行などの際には大に注意すべきなり。

(81) ● 手を淸める咒

近所に水のなき時に手を淸むるには自分の頭を撫でゝ、

七夕や天の川原に水きれて、今の手水はから手水

この歌を讀みて草の葉を採んで肩より脊中の方へ投げるべし。

(82) ● 惡氣を拂ふ咒

舊五月五日に紙の人形を造り艾を以てくゝり門口に掛け置かば種々の惡氣に襲はるゝ事なしと云ふ。

(83) ● 痔疾の咒

入梅の季節の卯の日に蛞蝓を取ッて瓶の中へ白砂糖を入れ置かば自然と解くる

のである、其の液を綿に浸して肛門に入るれば如何なる痼疾の痔でも治するものなり。

(84) ●思ふ人に思はれる咒

舊暦五月五日に鳩の脚を取り男は左、女は右の腕に結び付け置けば其人に戀ひ慕はるゝと云ふ。

(85) ●金持となる咒

明扇明女王唸急如律令

此の符を書いて懐中すれば次第に金持になる。併し麁末にする時は却ッて貧しくなると云ふ。

(86) ●轉居先の邪氣を除く咒

移轉先きの家の邪氣を除くには、萬年青を其家に持込むだ後、諸道具を持運ぶべし、斯くせば災難ありたる家も差支なしと云ふ。

(87) ●飲物の中に毒あるか否やを知る法

水又は湯なりに我影の寫らざるは毒あり飲むべからず。

(88) ●子の出來る秘法

子なき人は四季の土用の丑辰未戌の日を撰み交接すれば胎兒健全にして孕むと云ふ。

一月は午前四時に土用の季節に入る。
四月は午前十時に土用の季節に入る。
七月は午後四時に土用の季節に入る。
十月は午後十時に土用の季節に入る。
此土用日は暦に就て見れば解る、故に其入りたる日より數へて丑辰未戌の日に行ふべし、但し女には孕み月あり。

正、四、七、十、　此所を女のとし十六として數へはじめ
二、五、八、十一、　此所を十七とかぞへ
三、六、九、十二、　此所を十八とかぞへ又元へかへりて十九とかぞへ

いくつにても女の年ほど數へ當る所がはらみ月なり、然れば一年に孕む月は四月づゝあり、假令ば今廿才の女なれば二、五、八、十一月がはらみ月なり、右の月外れて孕めば育たず能く／＼生れて七才までなり。

禁呪術秘傳

(89) ●病の長引かぬ咒

長病を止むるには餓鬼祭りを行へば必ず快復すべし。
左の符を書き之を祭壇に祭り其前に病人の年の數餅を供へ不動の陀羅尼經を唱へ而して此符と餅とを一ツにして之れを川に流し後を見ずして歸るべし。

此符の中へ鬼と云ふ字を書き子年なれば一ツ丑の年は八ツと左の年によつて書き入るべし。

子年の人は　鬼一ツ
丑年の人は　鬼八ツ
寅年の人は　鬼七ツ
卯年の人は　鬼五ツ
辰年の人は　鬼二ツ
巳年の人は　鬼五ツ

午年の人は　鬼五ツ　未年の人は　鬼九ツ
申年の人は　鬼五ツ　酉年の人は　鬼五ツ
戌年の人は　鬼二ツ　亥年の人は　鬼二ツ

長く病床に呻吟する人は之を行ひ其の快復を祈るべし。本服すること疑なし

(90)

●輕卒の癖を直す呪

凡て粗忽て氣の落付かぬ人は毎朝起る時左の足より踏み出し、又他所へ行く時や出入する毎に左より足を運ぶ癖をつくれば自然と治るものなり。

(91)

●痣ぬきの妙法

蓼を黒燒にして石灰と砥石の粉と合せて瓶に入れ糯米を入て水をさし糯米のとろけたる頃痣を針の先きにて血を出し右の所へ其の汁をつけ其上に紙を貼りおかば自然と抜けるものなり。

(92)

●酒に醉はぬ呪

柿を臍の上へ宛てゝおく時は決して酒に醉ふことなし。

(93)

●小兒の耳垂れを治す呪

耳垂れに罹りたる時には節分の柊に挾んだ鰯の頭を黒燒細末となし、胡麻の油にて煉り塗るべし速効あり。

(94)

●足の痿痺を治す呪

長座して足のシビレた時には疊の椽を少しく摘み取り唾にて自分の額に付くれば速に治す。

(95) ●田虫を治す呪

局所を墨で南と云ふ字を三ツ書いて塗り消すと其跡黒赤くなる、又北と云ふ字を書いて置けば忽ち治る事妙なり。

(96) ●汗を去る法

胡瓜の汁にて拭へば直に治るなり。

(97) ●ソラ手を治す呪

障子の穴より痛む手を出して左り利の人に手首を糸にて括らるべし、忽ち治る

(98) ●惡しき夢を打消す呪

惡しき夢を見し時には左の歌を三返唱ふれば其夢消ゆるなり。

見し夢を獏の餌食となすからに、心も晴れし曙の空

又大に氣に掛る夢を見た時は先ヅ口を嗽ぎ東方に向ッて左の呪文を唱ふべし。

赫々陽々　日出東方　斷絶惡夢　辟除不祥
唵急如律令

右の呪文を三唱すれば惡夢は散じて吉となる。

(99)
●凶事や怒る事を止める咒

凶事に逢ふときは即ち左の齒を噛み合すこと三十六度すべし、凶事を轉じて吉となし、禍ひ變じて福と爲すの秘法とす。

(100)
●家運繁昌の秘法

左の經文を朝起るときか夜寢る時に唱へる時は如何なる貧乏人も開運して其家繁昌して望み事叶はざる事なしと云ふ。

（唱へ文）

觀世音　南無佛　與佛有因　與佛有緣
佛法僧緣　常樂我淨　朝念觀世音

暮念觀世音　念々從心記　念々不離心

(101)
●目に物の入りたる時の咒

目に物の入りたる時は左右の肩へ唾を吐き、

アビラウンケンソワカ

と唱ふれば治る事不思議なり。

(102)
●火傷を即座に治す法

火傷の時は直に醤油を付くべし、痛みの去ること妙なり。

(103)
●煙草の酔を治す法

煙草に醉ひたる時は砂糖水をコップに一杯程呑めば卽座に治するなり。

(104) ●疊に染みたる油を拔く法

うどん粉を水に溶きて拭けば卽時拔けるものなり。

(105) ●醬油の黴を豫防する法

麻の切れに芥子を包みて醬油桶の中に入れ置くべし、入梅の時候と雖も黴を生ぜず。

(106) ●酒に醉たるを醒す法

茶碗一杯の水に白砂糖を入れ鹽を混せて呑めば醉醒め心爽なり。

(107) ●麥藁帽子を洗濯する法

集散（藥種店にあり）を水に溶かしハケにて之を摩れば元の如く美麗になるなり

(108) ●鉛筆の字を脫さぬ法

鉛筆にて書きたる文字を永く消へぬやうにするには其書いたる文字を皿に入れ牛乳を付けて之れを蔭干にすべし。

(109) ●病人の死生を知る法

病人が生るか死ぬるを知るには其人の年齡と病氣にかゝりたる月と日の三ツを合計し三拂ひにすべし、譬へば三十二才の人が五月六日に病氣に罹りたれば合せ

て四十三となる、之を三にて割れば一つ殘るなり。
一ツ殘れば輕し、二ツ殘れば重し、三ツ殘れば治し難し。

(110) ●災難を前知する法

男は左、女は右の眼下に青筋が出たならば三日以内に災難に遇ふ。
眼中に赤筋の現はれ瞳を貫く時は其日の中に災難あり俗に之を劍難の相と云ふ。
眼瞼チラ〳〵する時は近い中に難に逢ふ。
鼻に青筋の出た時は一日の中に危難あり。

(111) ●餅に黴の生ぬ法

餅の入れある桶か箱の中へ串柿一本入れ置くべし。

(112) ●腋臭を治す法

燒明礬を一日一回ヅヽ局部に塗るべし、直に治る事妙なり。

(113) ●漆器の臭氣を取る法

米の磨汁を沸かして其器の中に入れ置く時は臭みは忽ち拔けるものなり。

(114) ●蚤を除く法

樟腦と薄荷を等分に混合して蒲團の下に散布すれば蚤は出でざるなり。

(115) ●頭のフケを除る法

梨子一個に柏葉を少し胡桐を等分にして之を粉にして水に浸し櫛にて削れば忽ち除くべし。

(116) ●書籍の汚点を去る法

本に汚点やインキなどの附着たる時はシユセキサンにて洗へば直に除れる事妙なり。

(117) ●飯櫃の臭みを除る法

新らしき櫃へ飯を入るれば木の香が出るものなり、之の香を去るには蕎麥粉を櫃に入れ熱湯に注けばよし。

(118) ●陰虱を治す法

胡椒の粉を温湯に溶かして塗る時は忽ち治るものなり。

(119) ●割れたる石をつぐ法

大切の石を誤ッて割りたる時は揶揄の皮の液を取て繼ぐ時はよくつくものなり

(120) ●鳥眼を治す法

八ツ目鰻を砂糖醤油にて附焼にし食ふ時は速に全治すべし。

(121) ●尖を抜く法

手足に尖の立たる時は梅干を厚く付け其上を紙にて貼りおけば抜ける事妙なり

(122)

●器物に光澤を出す法

羅紗の片にアマニ油を浸し入念に擦るときは光澤を出し奇麗になるなり。

(123)

●火の刎ねるを止むる法

火鉢に炭を入れたる時に刎ねる塲合は塩を一摘み入れば刎ねざる事妙なり。

(124)

●色を白くする法

唐菜を擂鉢に入れて能く擂り卵の白味と混合し、それに微温湯を加へ寢際に塗るべし。

(1 5)

●朝顔の花を大きくする法

米の磨汁に煙草の幹を混せ朝夕注ぐ時は大きな花が咲くものなり。

(126)

●寒さを防ぐ法

美濃紙を二三枚衣服の間に入れ置けば風が通らずして暖かなり。

(127)

●煙草の脂を去る法

煙草の脂が付きたる時は桐の葉を揉みて擦れば落る事奇妙なり。

(129)

●濁水を澄す法

水甕の水が濁りたる時は生姜を入れ置くべし、濁水は底に沈むなり。

(129) ●卵の牝牡を區別する法

細長き卵は牡で圓きものは牝なりと知るべし。

(130) ●酒醤油の汚点を去る法

豆を煮たる汁で汚染のケ所を洗ひ清水にて濯ぐ時は直に落るなり。

(131) ●青菜を軟くする法

青菜を煮るには鹽を少し入るべし、速に軟くなるなり。

(132) ●貝類を軟く煮る法

凡て貝類は大根と糠とを入れて煮るべし、速に軟かくなるなり。

(133) ●板の裂れを防ぐ法

石灰に鹽酸を混せて板の両端に塗れば裂れざること妙なり。

(134) ●硝子器の破れぬ法

コップや硝子の器を鹽水にて煮る時は熱湯を入れても破れぬものなり。

(135) ●牛乳の腐敗せぬ法

牛乳を長く保存せんとする時は、炭酸マグネシアを少し入れて置くべし、何日經ッても腐敗することなし。

(136) ●天麩羅を暖かにする法

網の上に白紙をしき其上に天麩羅を乗せて暖むれば味ひよし。

(137) ●鰹節の保存法

鰹節に酒を塗り置く時は決して虫生せず長く保存せらるべし。

(138) ●酢の黴ぬ法

酢の中へ塩を入れ置く時は決して黴せず又味の變はる事なし。

(139) ●蛸を柔かに煮る法

煎茶を入れて蛸を煮れば柔かになる事妙なり。

(140) ●印判を洗ふ法

火鉢の灰を茶碗の中に入れ水を入れて印を洗ふべし。

(141) ●赤毛を黒くする法

赤毛を黒くせんとするには桐の木を煎じ置きて髪を洗ふべし、自然と黒くなるものなり。

●吉凶の前兆

出先きの途中にて物を見て吉凶を占ふ法あり、徳川家康曾て關ケ原の戰に出掛ける途中大なる柿を進上する者あり、家康喜び勇んで曰く大垣我手に入れりとて遂に大勝を得たりと、之を以て出先の途中にて吉きものを見れば吉き事のある前兆と知るべし。若し出先きの途中にて、

○赤い布切を見付て拾ひたる時は喜び事あり。

○朝女が來れば其日に出入の人多く。

○耳の痒き時は喜び事あり。

○蟻の多く出て這ひ歩く時は雨か風が吹く。

○蚯蚓の集る時も風雨の前兆なり。

○便所の臭ふ時は二三日の内に雨降る。

○朝日の赤くして天を焦す時は暑さ烈し。

○朝燒のしたる日は雨降り、夕燒のしたる時は翌日天氣なり、又夕方の虹は明日は天氣、朝の虹は其日雨が降る。

○屋敷の圍の竹木の類に白き粉を吹く時は其家に不幸の事あり、又屋敷に植ある竹木が枯るゝ時は凶事あり。

○屋敷の周圍にある木の根が家の内に入つて枝葉繁りたる時は其家大に繁昌すれど竹木の類が自然と枯るゝ時は其家衰ふ、然し之を切り取れば吉とす。

○帽子や帶の類へ血の付たる時は不吉の兆なり。

○蘭や植木の枯るゝ時は凶事あり。

○鼠が毎夜天上に騷ぐ時は金錢手に入るか遠方へ行きたる人が歸る事あり。

○鼠が人の帽子或は衣服を食ふ事あれば百日以内に金錢の利益を得て大吉なり。

○鼠が晝夜相爭ふて天上裏にて喧嘩をする時には其家を移轉する事あり。

◎鼠が箱や籠の中に巣を作る時は其家困窮するなり。
◎鼠が地中へ穴を堀る事あれば其家の人々退き去る事あり。
◎鼠が家を去りて居なくなれば其家必ず火事に遇ふべし。
◎鼠が地に落ちて鳴く時は思はざる財寶を得、鼠が毎夜鳴く時は財產を得て家業繁昌すべし、之の故に藝者屋や女郎屋などでは此の鳴き聲の眞似をして客を引き寄するなり。
◎雀の子が家に入る時は福祿を得て大によし、家鴨が家に入り、或は飛び廻りて鳴く時には百日の中に凶事あり。
◎鳥類が家の上にて鳴き叫ぶ時は財寶を得る　鷄が人の体に止まる時は不吉にして或は病氣する事あり。
◎　鷄が蛇を啣へて家に入るは大不吉なり。
◎　鷄が宵鳴きする時は死人が出來る。

◎雪隱にて行き逢ふ時は憂ひ事あり。
◎故なくして人が眠くなる時は禍ひあり。
◎池や井戸の水が濁る時は爭論や裁判事あり。
◎馬が鼻を鳴らして止まざるときは不祥の事あり。
◎梁の上に羽蟻が集まれば主人が死する事あり。
◎柱や桓根に白蟻が生ずる時は其家だん／＼と貧乏になるなり。
◎屋根の上に種々の草が生へる時は其家ちり／＼となる事あり。
◎糞桶、小便桶などが鳴動する時は金錢財寶を得る事あり。
◎猿、狸、狐の類が人家に入りて鳴く時は主人に災難の來る事あり。
◎犬が門口に小便をする時は其家に口舌事あり。
◎蛇が途中を遮るに出會ふ時は金銀財寶を得る事あり。
◎泉水の中へ貝類が多く生ずる時は主人に過失あり。
◎途中にて龜などの這ひ居るを見る時は金錢手に入る事あり。
◎蝶や蜂が花を取りて家に入り來る事あれば女子を產す。

◎犬が床に上りて食物を吐けば口舌争論あり。

●烏啼きの吉凶を知る法

	午前三時ゟ七時迄	午前七時ゟ十一時迄	午前十一時ゟ二時迄	午后二時ゟ五時迄	午后五時ゟ七時迄
東方	人より物を送る	大に風雨あり	争ひ事あり	悪しき事あり	口舌事あり
巽方	争ひ事あり	女の來る事あり	親しき人來る	悪しき便りあり	病ひあり
南方	喜事あり	人に招かれる事あり	争ひあり	遠方の便りあり	人が來る
坤方	金錢上の利益あり	人を招く事あり	悪き事あり	雨風あり	人を招く事あり
西方	外ニ思う事あり	口舌争論あり	人より物を送らる	大ニ吉事あり	善人が來る
乾方	酒食の饗應にあふ	争ひ喧嘩する事あり	酒食の事あり	親しき人來る	失物知れる
北方	口舌あり	親しき人來る	人より物を送る	失物あり	病ひ事あり
艮方	病ひ事あり	親しき友來る	女より物を送る	客人來る	病氣する事あり

烏の鳴く日の吉凶	
子日	親しき人が來る
丑日	悅び事あり
寅日	口論争ひあり
卯日	金錢を得る
辰日	客來る
巳日	大ニ喜び事あり
午日	財寶を得る
未日	損失あり
申日	金錢を得る
酉日	貴人に吉ならず
戌日	金錢を得る
亥日	争論あり

烏の鳴く時間の吉凶	
夜十二時	親しき人來る
二時	災ひあり
四時	口論争あり
六時	喜び事あり
八時	客來る
十時	万事心ニ叶ふ
晝十二時	病事あり
二時	牛馬類ニ凶
四時	喜び事あり
六時	損失あり
八時	寶を得る
十時	失物注意すべし

百歩の外で鳴くのは之れ他の事にして我が事ニあらざれば必ず氣に掛けるに及ばず。

●釜の鳴る時の吉凶

丑寅や辰申戌は吉と知れ、其外の日は凶しきなり。

●耳の鳴る時の吉凶

丑未午卯亥は吉し、子は人來りて寅申辰巳酉戌は凶し。

●犬の遠吼で吉凶を知る法

子丑辰卯巳戌亥は吉、寅午未申酉は近き内に不幸あり。

●一年間の行事

一月

一、毎朝塩水にて口を嗽げば風邪に罹る事なし。

一、足を洗ふ時湯の中へ塩を入るれば脚氣に罹らず。

一、樒の木の實を酒の中に入れて飲めば邪氣を拂ふ。

一、此月の鯆は頭に毒虫ある故に頭は食ふべからず。

一、寅の日と寅の刻限には何事も成就せざるなり。

二月

一、月の上旬のひのとの日に入浴すれば其年の邪氣を拂ふ。

一、此月卯の日卯の時を用ゆべからず、何事も成就せず。

一、上十日の中に壬の日あらば土を取り壁を塗るべし、家繁昌

すると云ふ。

三月

一、菜の花を床の下蓙に敷けば蚤出でず。

一、李桃の葉を蔭干にして毎朝呑めば胸の病に罹ることなし。

一、凡て辰の日、辰の刻限を用ゆるときは何事も成就せざるなり。

四月

一、鷄の生肉を食へば骨疽病にかゝる。

一、今月の鰻には毒を含み居れば注意して頭を食ふべからず。

一、己の日、己の刻限に何事も爲すべからず成就せず。

五月

一、己の日處女に花實の種を蒔かすれば其花美しと云ふ。

一、菊の莖を煎じて呑めば白髪生へず。

一、入梅の水にて戊の日に皮膚を洗へば、腫物など出づる事なし。

一、八十八夜の日、東に延びたる桃の枝を切り取り枕に入るれば物を忘れずと云ふ。

一、午の日午の時を用ゆべからず、何事も成就せずと云ふ。

六月

一、暑氣に中りたる時は、道路の熱き土を臍の上に置けば忽ち

治るべし。

一、茄子を燒きて呑めば腹痛治る。

一、今月三十日に婚姻する時は夫婦災難に遇ふと云ふ。

一、未の日、未の時に何事も始むべからず。

七月

一、丑の日に金持の屋敷の土を取り來り竈を塗れば、其家必ず繁榮すると云ふ。

一、七夕の日に男女の關係生じたる時は其年必ず離るべし。

一、盆の十三、四、五、の三日の中に病付けば癒らずと云ふ。

一、土用の日小豆七粒を飲めば赤痢にかゝらず。

一、申の日、申の刻に男女の交りをすべからず、若し懷姙したる時は其子盜癖ありと云ふ。

八月

一、懷姙したる時は蟹を食ふべからず。

一、日蔭の水を呑むべからず、必ず脚氣に罹ると云ふ。

一、酉の日、酉の刻限を用ゆる時は損あつて益なきなり。

九月

一、戌の方位に木炭五ツへ木、火、土、金、水、と書し水と云ふ字を上に乘せて戌の日ニ埋むれば火災を免がる。

一、枸杞の實を酒に浸して飲めば無病長命なるべし。

一、菊の花を食せば腹に廻虫生ぜず。

一、戌の日、戌の刻限に物を始むる時は何事も成就せず。

十月

一、亥の日に餅を食へば諸の邪氣を拂ふ。

一、小豆の蔭干を煎じて呑めば唇の青くなるのを治す。

一、此月の亥の日に猪を食ふ時は腫物出づると云ふ。

一、亥の日、亥の時に家を出づれば不慮の災難に遇ふ。

十一月

一、子の日に粥を食ふ時は肝癪を治す。

一、子の日に灸を据ゆれば何病にても治する事請合なり。

一、魚の骨を黒燒にして呑めば痲疹に罹らずと云ふ。

一、子の日子の時には何事にも用ゆべからず。

十二月

一、月の始めの丑の日に門戸を作れば盗難に遇はずと云ふ。

一、丑の日に髪を洗へば無病となる。

一、丑の日の丑の刻に願をかければ思ひ事叶ふ。

一、丑の日、丑の刻に始める事は、何事も首尾よく成就すると云ふ。

●盗賊の男女並方位を知る法

盗賊が男か女か又其持去りし方位を知る秘法を示さんに、

子の日

盗難に罹りたる時は、酉の方位に住む女が取り、其品物を辰の方の田舎に持ち去りたるものなり。

丑の日

盗難に逢ひし時は、酉の方の男が來りて品を取ッて巳の方に行き又其所より戌亥の方に持ち去りたりと知るべし。

寅の日

盗難に逢ひし時は、戌の方の女が品を取り辰巳に出で、夫れから未申を通りて北方に持ち去りたるものなり。

卯の日

盗難に罹りたる時は辰の方の男來りて取り、巳の方に出で未の方に廻り、更に戌の方に持ち行きたるものなり。

辰の日

盗難に逢ひたる時は、南の方の中年の女來りて東の方に出で、北に持行き西の方に品物を匿しありと知るべし。

巳の日

盗難に罹りたる時は、北の女が取り東の方に一旦逃げて、今は北に持ちきたりと知るべし。

禁呪術秘傳

午の日

盗難に罹りたる時は、亥の方の若き男來りて品を取り、未の方に出で丑寅に廻りて現在盗まれて一週間は辰巳の方角にありし

未の日

盗難に罹りたる時は、丑の方若き男の手にあり、其品は未申に持ち行き北に廻りて更に之れを辰巳の方に匿しありと知るべし。

申の日

盗難に罹りたる時は、東方の年増の女取りて北に出で、更に東に廻りて申酉の方へ持ち行かんとする所なり。

酉の日

盗難に罹りたる時は、亥の方の男來りて持ち去り、一旦南に行き更に西に廻りて自宅に持返りたるものなり。

戌の日

盗難に逢ひたる時は、酉の方の老年の男取り北に出で東に廻り今は辰巳の方にありと知るべし。

亥の日

盗難に逢ひし時は、申の方老女來りて持ち去り、一旦丑寅に出で南に廻り更に之を戌亥の方に持去りたるものなり。

●盗まれた物の現はるゝ日

子の日に盗まれた時は卯、午、酉の日に知れる。
丑の日に盗まれた物は辰、未、戌の日に出づる。
寅の日に盗まれた物は巳、申、亥の日に現はる。
卯の日に盗まれた時は子、午、酉の日に出づる。
辰の日に盗まれた時は丑、未、戌の日に出づる。
巳の日に盗まれた物は寅、申、亥の日に現はる。
午の日に盗まれた物は子、卯、酉の日に現はる。

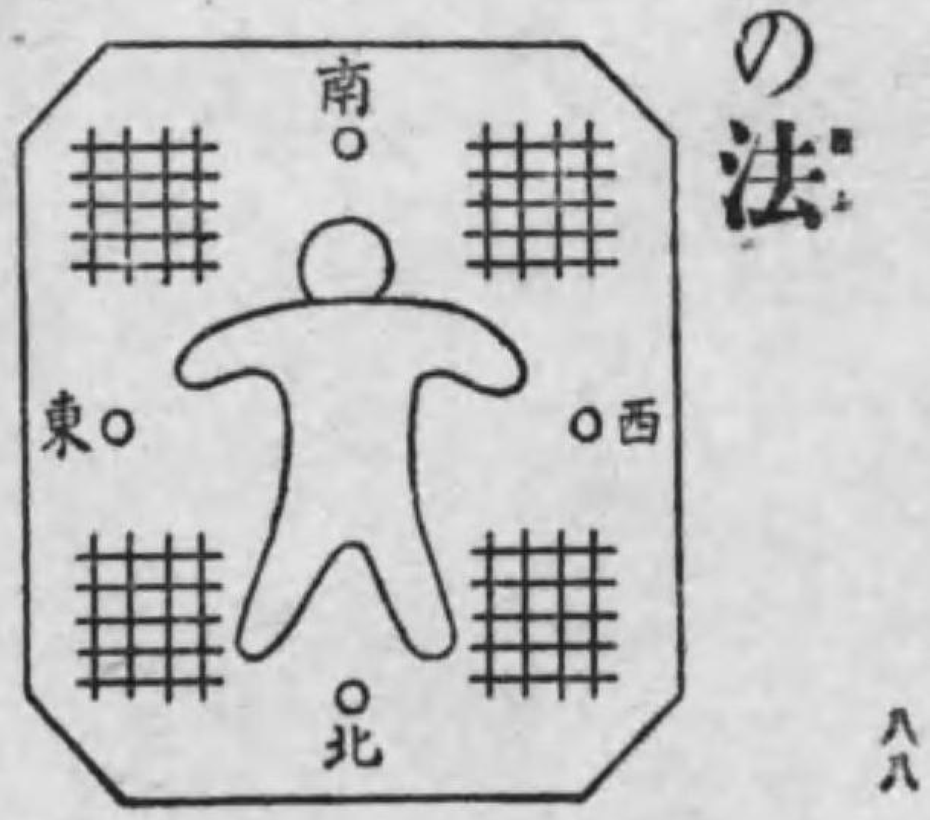
未の日に盗まれた時は丑、辰、戌の日に出づる。
申の日に盗まれた物は寅、巳、亥の日に出づる。
酉の日に盗まれた時は子、卯、午の日に現はる。
戌の日に盗まれた時は丑、辰、未の日に出づる。
亥の日に盗まれた時は寅、巳、申の日に出づる。

●盗難に遇ひ必す現はす法

一 □□□□
□□□□の如く三寸四方の白紙に書き其上部と下部とに人の顔を書き盗人の足跡へ三日間伏せて置くべし。

●盗人の足留の法

圖の如く書いて
○印の所へ釘を打ッべし



行く道は父と母との道なれば
　行く道とめよ此道の神
右の歌を白紙二枚に認め猿田彦大神と祈念し、
　西東北南にも[illegible]　辰巳のがさん
と唱へッヽ釘を打込むべし。

（をはり）

昭和十年五月廿日印刷
昭和十年五月廿五日發行

不許複製

定價金五拾錢

著作者　大阪市浪速區元町二丁目一〇六　榎本進一郎
發行兼印刷者　大阪市住吉區天王寺町三三九六　田村政次郎
印刷所　大阪市住吉區天王寺町三三九六　榎本印刷工場

發行所　大阪市浪速區元町二丁目一〇六　合資會社　榎本書店
電話船場一六三四番
振替大阪三四八二番

368
374

終